

広 報

富士川

町のメモ

昭和54年3月1日現在

人口	16,958人
増減	+8人
男	8,441人
女	8,517人
世帯数	4,155世帯
面積	31.09km ²

3月号

昭和54年3月20日発行

No. 212

富士川町 総務課

町の今年
の目標

「きれいな町にしましょう」

増・改築を待つ

第一中学校特別教室



第一中学校特別教室の増・改築工事を主体に

増・改築工事を主体に

町議会の3月定例会は、3月9日(金)午

前9時から議場で開催され、常葉町長の昭和54年度重点施策の報告を皮切りに、昭和54年度一般会計予算、国民健康保険・土地取得・水道事業の各特別会計予算や昭和53年度一般会計補正予算など、15議案が審議され、全て原案どおり可決されました。

昭和54年度一般会計予算は十七億三千二百萬円で、前年度当初予算より二億七千八百三〇万円、19・1%の伸びとなります。
国民健康保険特別会計予算は、医療費の自然増を見込み、三億五百五十八万五千円となり

土地取得特別会計予算は、昭和45年度に公共用地の先行取得をすすめるため発足したもので、昭和54年度は二千六百万円となります。水道事業特別会計予算は、3年目を迎える第二次拡張事業を主体に一億三千八百六十六万円となります。

昭和53年度一般会計補正予算は、中央公民館建設基金、土地開発基金、財政調整基金への積立を主体に一億六九〇万円を補正し、予算総額は十八億八千八百八〇万円となります。

なお、昭和54年度重点施策 一般行政報告 一般会計予算の内容は、次のとおりです。

重点的に実施します。

また、交通事故から人命を守るため、交通安全施設・防犯灯設置補助、地震にそなえて急傾斜地防災事業負担金の増額・広報無線・耐震性防火水槽・可搬式動力ポンプの購入等、施設の整備と自主防災組織の育成・公共施設耐震調査等の地震対策の予算科目を新設しました。

◆農林業基盤整備と商工業の振興をはかる

農免農道・四十九農道・吉津金丸線等、基盤整備事業の早期完成

54年度の重点施策

昭和54年度の町政を推進するにあたり、当初予算に反映させた重点施策を述べてみます。

◆教育施設の充実と社会教育の振興

教育施設の計画的な施設づくりとして、第一中学校特別教室増改築事業を予算化、学校等施設管理費については節減に努めました。近年、社会教育の分野では、生涯教育の推進の場として開設学級

体育・スポーツ面では、行政と住民が一体となったグループ活動が盛んになったため、学校施設の開放だけでなく、河川敷スポーツ広場の改修整備、中央公民館建設用地の整備等、広場の確保に努めています。

◆生活環境の向上と住民の生命を守る

住民のみなさんから要望の多い側溝改良事業等、都市計画事業を

一般行政報告

◇水田利用再編成対策について
米の生産を計画的に抑制し、今後、生産振興の必要な農産物について、水田の高い生産力を活用し生産拡大をはかり、需要の動向に安定的に対応し得る農業生産構造の確立をはかる政策で、昭和53年度から10カ年事業で進められています。

この政策を遂行するには、国・県・町及び農協等と、農業者の緊

密な連携により転作を効率的に進めることが重要です。
当町の転作配分面積は、53年度から55年度の3カ年で76・5畝と非常に厳しいものであり、稲作農家のご理解とご協力を得なければとても目標達成はできません。

しかし、農業行政を含めた諸施策推進のためにも、ぜひとも目標達成に、町をあげて努力していく所存です。

◆中央公民館用地について

公民館建設までの間、テニス、ゲートボール場として使用できるよう敷地に盛土を完了、現在は転圧中で、これも近く完了する予定です。

◆「町政を語る町民との集い」は

町政の姿勢を明確に町民に理解してもらおうと共に、町民から提言提案をしていただき、その声を町政に反映する目的で、昨年10月11日より本年2月14日までの4カ月間、行政区を単位とした29会場で開催しました。

その結果、29会場で約1千人の方々の出席があり、積極的な発言は355件、そのうち要望件数は166件ありました。
私自身その場で答えしなかったものも含めて、それぞれ今後十分内部

検討し、町政に反映していきます。また、町民との対話は、今後も積極的に進めていきます。
◆県道富士川身延線バイパス「木島一馬坂」間の開通について
当町と山梨県を結ぶ主要地方道としての県道富士川身延線の交通量緩和を旨とするバイパス建設計画の内「木島一馬坂」間約1・7kmが完成し、3月26日には開通式を行う運びとなりました。

◆郡高校設置促進について

庵原郡広域行政の最優先課題として、郡高校設置促進協議会を中

のための予算化を行い、農林業の振興について、国・県の施策を十分検討し取りこんでいきます。
商工関係は、商工業の振興をはかるということで、商工会への補助を積極的に行います。
◆住民参加による福祉と健康な町づくり
新たに高額医療費一時貸付金・母子世帯医療扶助の町単独事業を実施、民間の奉仕活動をさらに充実するために社会福祉協議会を法人化することにしました。

一方、限られた財源をより効率的に執行するため、福祉施策の見直しを検討していきます。
また、住民の健康管理のため、結核・ガン集団検診の推進や、予防接種の料金を無料化します。
さらに「きれいな町づくり」のための施設づくりも積極的に進め、庵原三町ゴミ焼却場の54年度完成を目指し、運営施設費負担金の予算を大幅に増額しています。

◆60年に向けての町づくりを

計画性のある町づくりのため、基本計画にもとづいた実施計画の作成、調和のとれた土地利用のための調査費の予算化を行いました。この中には緑の多い町づくりのためのプラン作り、野田山を中心とした山地開発の調査委託料が含まれ、これらの計画策定のため審議機関の充実もはかっていきます

心に積極的な誘致を進めています。が、更に具体的に進展するよう去る2月17日、三町々長・議会議長で県に陳情を行いました。
◆地方統一選挙について
4月に入りまずと地方統一選挙が行われます。
県会議員選挙は、3月27日告示4月8日投票日
町会議員選挙は、4月15日告示4月22日投票日
当町の有権者数は本年3月13日現在、定時登録者数が男5、706人、女5、981人の計11、687人です。

明るい選挙の推進が選挙管理委員会及び明るい選挙推進協議会で進められています。
よく趣旨を理解され、地方統一選挙に対処してください。



3月定例会を社会科の勉強で傍聴する
町立第一小学校の3年生190人



町政を語る町民との集い

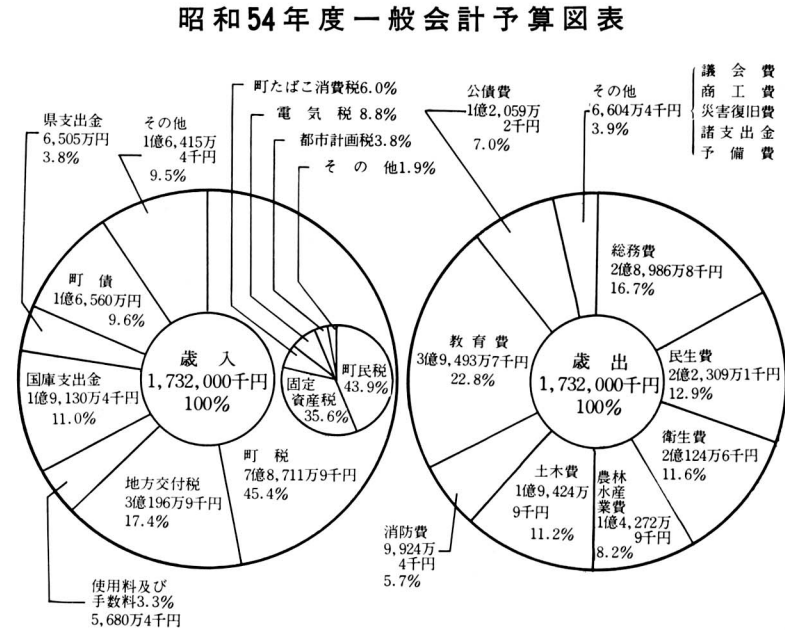


開通間近なバイパス

選挙のご馳走は
出しません食べません
選挙の
見張番はやめましょう

一般会計予算の内容

昭和54年度当初予算編成は、
1 経常的経費については、節減合理化を行い極力その規模を抑制し、投資的経費については、財政事情の許す範囲で積極的に推進する。
2 現況の厳しい財政事情を考慮し都市計画税の税率を引き上げ、
3 財源の重点的かつ効率的配分をはかるため、既定経費の節減合理化、人件費の抑制及び公共料金の適正化をはかる。



- 総務費に 二八、九八六万円
 - ◇広報無線施設工事費に
 - (宮町、粒良野、西野下平、南松野、池野、漆野、大代、足ヶ久保) 七五八万円
- 民生費に 二二、三〇九万円
 - ◇医療費一時貸付金に一〇〇万円
 - ◇母子世帯医療扶助費に五〇万円
- 衛生費に 二〇、一三四万円
 - ◇レントゲン撮影、ガン集団検診 四一三万円
 - ◇乳幼児長期疾患医療費扶助に 四〇万円
 - ◇庵原郡環境衛生組合負担金に 六、六八九万円
- 農林水産業費に 一四、二七三万円
 - ◇農免・四十九農道新設工事、木島排水路工事、中之郷用水々門改修工事 五、七二五万円
 - ◇公共吉津金丸線林道開設工事、木島室野線防災工事に 二、六五〇万円
- 商工費に 一、六三三万円
 - ◇静岡庵自然歩道整備工事に 一一〇万円
 - ◇野田山周辺調査委託料に

- 土木費に 一九、四二四万円
 - ◇旭町・幸町・宮町急傾斜地防災工事負担金に 五〇〇万円
 - ◇富士川由比線路肩補修工事に 一〇〇万円
 - ◇公共吉津小山線・上町吉津線新設・単独吉津小山線改良工事、松永中沢線改良舗装工事、桑木野線拡幅工事に八、一六六万円
 - ◇土沢・谷津沢護岸改修工事、相生町水路改良工事に八七〇万円
 - ◇新町都市下水路工事に 三、〇〇〇万円
 - ◇黒里前排水路工事、富士川町都市下水路浚渫工事、側溝改良工事に 一、七三〇万円
- 消防費に 九、九二四万円
 - ◇緑のマスタープラン委託料に 一〇〇万円
 - ◇消火栓工事(三基) 耐震性防火水槽築造費(二基)に 八七三万円
 - ◇C-1級可搬式動力ポンプ購入費(五台)に 二〇〇万円
 - ◇公共施設耐震度調査委託料に 一〇〇万円
- 教育費に 三九、四九三万円
 - ◇第一中学校特別教室増設改築工事に 一六、〇〇〇万円
 - ◇河川敷スポーツ広場表土改修工事に 三六九万円

都市計画税とは

町の健全な発展と秩序ある整備をはかるための側溝改良、都市下水路、区画整理などの都市計画事業の財源となります。

町では、従来土地・家屋の固定資産税の課税標準となる価格に税率100分の0・1をかけた額を徴収していましたが、みなさんから側溝改良などの要望が多いため、54年度から税率を100分の0・2に改定し、なお一層住みよい環境づくりを推進してまいります。

課税対象区域は、都市計画法第二条の規定で決定された都市計画区域のうち、市街化区域内の土地・家屋に対し、その所有者に課税されます。

納付は、年4期に分かれ、固定資産税と同時期に、合わせて納付していただきます。

なお、納税義務者は3、885人で総額二千九六三万円の収入が見込まれます。

水田利用再編成対策に協力

建設農林課長 加藤 勲

米の需給を均衡させ、総合的な農畜産物の自給力を向上させようと、53年度から水田利用再編成対策事業が実施されています。

これに伴う国の生産調整、転作目標面積は39万1千畝、そのうち静岡県には6万3千10畝、また当町には25・5畝が配分されました。

53年度は初年度ということもあり当町では、事業の理解度、また配分目標達成の推進についても具体的取りくみを、末端農家の自主協力に依存したため、目標面積に對し9・7畝、達成率38、2%にとどまりました。この達成率は国全体で11・3%、県平均でも106%ですから、県下最低の成績ということになりました。

事業の内容、対応についての評



水ノ口公会堂での水田利用再編成対策説明会

価格は別として、未達成市町村が非協力市町村と読み変えられるような厳しい局面から、早急に問題解決に当らなければならない現状であります。この現状を踏まえ、54年度の富士川町の推進方策としては飯米農家を含んだ公平確保の徹底を期し、水稻作付農家に一律31・4%の転作面積を配分基礎として各地域ごとに腰のすわった転作を部農家のご協力をいただき推進する所存です。また転作作目の選定につきましても農協、関係各機関と共に、積極的に指導援助を進めていきます。

しかしながら、いざ現地の末端農家のご理解、ご協力を受けるには、各農家の経営内容、労働力、土地基盤が千差万別であり、もとも飯米農家が大半を占める当町としては、無理を無理とせず、推進しなければなりません。これまで各地区部農会ごとに町内14会場で説明会を開催し、みなさんから沢山のご意見、ご批判をいただき戦時戦後の食糧難時代からの歴史を回想するとき、まさに断腸の思いであります。

この大手術とも言える厳しい訓練は、農家全体、農家総てがさけて通ることができない問題であると言ふ認識のもとで、実情に応じた転作目標配分の達成を重ねてお願いたします。

第二幼稚園 増・改築工事が完了

町立第二幼稚園は、近年の松野地区の人口増加により、既存の保育室では手狭になってきました。そのため、教育委員会では、総事業費約五千四百〇万円をかけ、昭和60年までは十分増加する園児を収容できる施設にと、園舎増改築工事に昨年6月から着手し、本年2月13日に落成式が行われました。

増築部分は、現園舎の東側棟続きに造り、鉄骨平屋建て、床面積は340平方メートル、174平方メートルの遊戯室、職員室、器具室からなっています。また現園舎の職員室、用務員室を改築し、新たに2保育室を増設、全部で6保育室となりました。



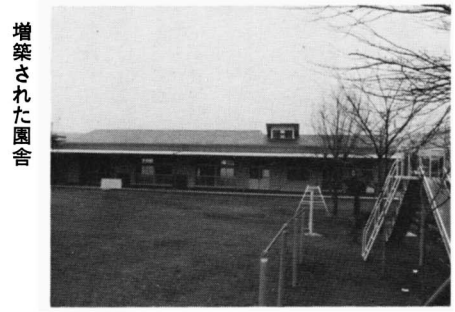
久保田敏男氏

消防長官表彰を受章

消防庁は毎年、消防員及び消防団員の士氣高揚を図ること、地域住民の消防に対する認識を高め、理解を深めてもらおうと、消防団に顕著な功績のあった方々に、長官表彰を行っています。

本年も2月に受賞者が発表され当町からは、33年間一貫して町消防団の発展に貢献した功績により久保田敏男副団長(清水町)が選ばれ、3月7日に県庁で「永年勤続功労章」を受賞されました。

久保田氏は「まだ実感はわかないが、こういう立派なものをもらった以上、なお一層町消防団のために尽力したい」と、受賞の喜びを語っていました。



増築された園舎

富士川町は住みやすくなったろうか?

「富士川町の環境」より

環境衛生課より2月下旬「富士川町の環境」(52年度版)が発行されました。

これにより52年度中に、みなさんから受けた公害の苦情内容をみまますと、大気の汚染、水質汚濁といった代表的な公害に対する苦情が減った反面、騒音・振動・悪臭など感覚的、心理的被害を伴う公害の苦情が増加しています。

そこで、今月の広報「富士川」では、町で今、問題となっている公害について「富士川町の環境」の中から紹介してみました。

空気はよくなったただろうか

大気を汚染しているものには、工場や事業所、みなさんの家庭が重油、灯油、プロパンなどを使用することにより排出されるものと自動車などから排出されるものがあります。

では、個々に述べてみましょう

硫黄酸化物
代表的なものは亜硫酸ガスで、大部分は工場からの煙が発生源となっています。

またこれは、身体の呼吸器系を刺激し、植物を枯らします。しかし、現在では、排出規制の強化、

燃料の低硫黄化対策が進められた結果、図1のとおり減少し、環境基準以内(一日平均値が0.04ppm)となっています。

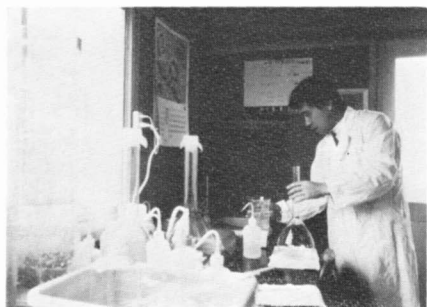
窒素酸化物
主要発生源は自動車の排気ガスで、全体の60%を占めています。

年間を通しては、夏より冬の方が濃度が高く、一日のうちでは、自動車の通行量が多い午前6時から10時、午後5時から10時の間が濃度が高くなっています。

毒性は、呼吸器系の気管、肺への障害と、ヘモグロビン結合による血液毒の両作用をもっているといわれています。

図2により、二酸化窒素の年次別平均濃度をみても、わずかに減少したにすぎません(基準では一日平均値が0.02ppm以下)

また、町内各交差点で、自動車の排気ガスに含まれる二酸化窒素を調査した結果、濃度の高い順に



測定液を作成中の職員

図1 亜硫酸ガス年平均値の経年変化

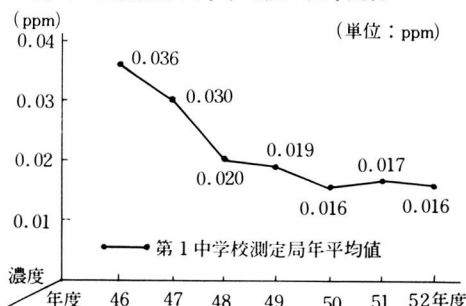


図2 二酸化窒素年平均値の経年変化

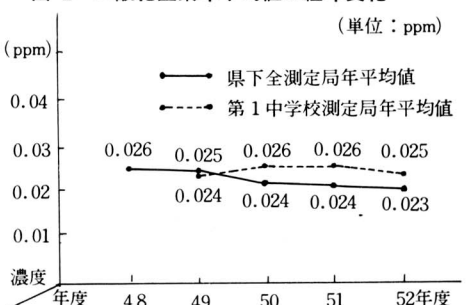
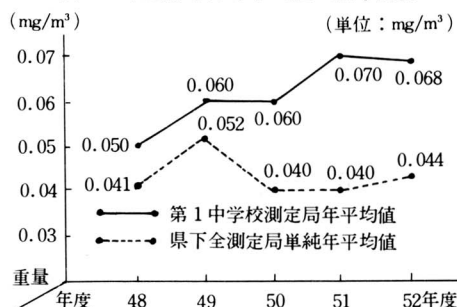


図3 浮遊粉じん年平均値の経年変化



大気中に浮遊するほこりで、沈降しにくい微粒子状のものをいいます。この内、比較的粒子の大きいものは、鼻やのどに付着し、たんや鼻汁として体外に放出されますが粒子の小さいものは肺へ沈着するといわれています。

年次別の測定結果では、いくらか減少していますが、町立第一中学校測定局では、図3のように県下で二番目の高い数値となっています。

フツ化水素
アルミニウムを製造する工程で生じるところから、県下では庵原

- ① 旭町交差点
- ② 本通り、静銀前交差点
- ③ 本通り、駅前交差点
- ④ 富士川橋交差点
- ⑤ 幸町、本州製紙入口交差点
- ⑥ 町立第二小学校前交差点
- ⑦ 小山作業所前交差点
- ⑧ 秀村医院横交差点
- ⑨ 南松野バス停横交差点

水はきれいになったかどうか

三町が主な発生地となっています

また、人体や植物に有害で、戦前から当町では、ミカンや野菜が被害を受け、代表的な公害とされています。

てきましたが、最近では被害範囲も減少し、大染窪、小池下付近を除けば、梅の花も咲くようになってきました。

があります。

これは、みなさんの家庭からの生活排水が原因しているのです。特に吉津川、中之郷用水、富士川も河口付近では、都市下水路、小池川の影響で水質汚濁が目立ちます。

主なものには、工場排水とみなさんの家庭の浄化槽、洗濯、炊事などに使用される生活排水があります。

排水中には有機物が含まれているため、水中の酸素を消費し、魚貝類に被害を与え、嫌気性バクテリアによって、アンモニア、硫化水素を発生し、悪臭公害を引き起こします。

今後の課題としては、中小河川の水質汚濁対策が遅れていること

私達たちも、この機会に家庭の生活排水について見直してみましよう。

「うるさい」「臭い」などが増加

しかし、各企業に対して排水基準を強化した結果、最近河川の汚濁が減少し、52年度の富士川水質調査では、北松野逢来橋でBOD 1ppm、下流の国一富士川橋でBOD 1.1ppm(基準ではBOD 2ppm以下)と、良好な水質を保

最近の公害は、騒音・振動・悪臭であるといっても過言ではないでしょう。

以前は新幹線、東名高速道路の騒音・振動が大勢を占めていたが、最近では――

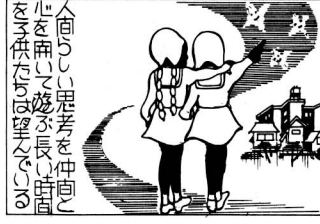
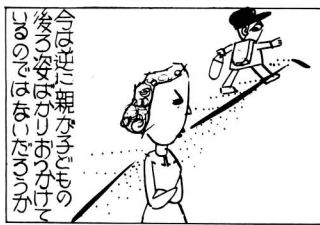
関係の苦情となっています。

悪臭については、畜産、缶詰製造工場、クラフトバルブ製造業、化学工場、し尿処理場などの特有な臭気に対して苦情が多くなっています。

騒音については、自動車に関する苦情が多く、工場・事業所がこれについています。

振動については、工場・事業所

防止対策としては、土地地区画整理を積極的に進め、工場地区と住宅地区を分離すること。また、工場等に、脱臭装置の取り付けなどが必要ですよ。



戸籍の豆知識

(その7)

婚姻はいくつまでできるか
またそのほかの要件は… (I)

「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立し…」と憲法第二四条で規定しています。このように男性と女性が夫婦になるうとするには、両方にその意志があつてはじめて婚姻が成立し、一方の意志だけでは成立しません。ある男性に好きな女の人ができ、どうしてもその人と結婚したいと思っても、相手の女性にその意志がなければ婚姻できませんし、もし仮に婚姻届に相手の女性の名前を署名し出してももちろん無効となり、逆に罰せられてしまいます。

(1) 不適合婚の禁止

両方に婚姻する意志があつても、ある年齢に達していないとこれもまた婚姻できません。ではいくつからできるでしょうか。民法では、男は満18歳、女は満16歳に達しなければ婚姻することができないと規定しています。これは、精神的、肉体的に成長していない者が婚姻しても幸せな結婚生活を過せないと

ったことを考慮したものです。なお、未成年者が婚姻をするときは、父母の同意が必要です。

(2) 重婚の禁止

読んで字のごとく重ねて婚姻することを禁じています。外国のある国のように、一人で何人もの妻を持つことや逆に何人も夫を持つこともできません。

(3) 待婚期間(再婚禁止期間)

これは女性についてのみの要件です。女性は前の夫と離婚したり、夫が死亡した場合、次の婚姻までは6カ月を経過しなければ再婚できないことになっています。なぜこのようになってくるかといえば、6カ月以内に再婚し、子どもを出産した場合前の夫の子か後の夫の子か判断できにくくなり、混乱をきたすからです。しかし、例外として前の夫(離婚した人)と再婚するときや、夫の生没が3年以上不明であることを理由とする離婚判決が確定した時などは6カ月待たなくても婚姻できます。

(4) 近親婚の禁止(これについては次回で説明します)

戸籍の窓

54・1・20～2・19
(敬称略)

おめでた

区名	出生児	保護者	続柄
相生町	望月一也	寧	長男
〃	渡邊啓光	晨男	長男
四十九	佐野康博	博	長男
宮町	桑原久樹	明	二男
小池	柚木伴子	頌久	二女
本通一	芦澤亜紀	元信	二女
幸町	中嶋史江	俊夫	二女
〃	吉川大輔	正春	長男
東町一	田畑江理	喜美夫	長女
日の出	望月嘉仁	俊明	三男
南町一	錦織史博	常實	三男

よろこび

南町一	篠原孝幸	薫	二男
八幡町	森本朋勲	慶太郎	二男
儘下町	羽山由実	隆	長女
区名	新郎	新婦	旧姓
木島	芦川良治	千枝子	山田
相生町	千頭和恒行	明子	三谷
堺町	鈴木正巳	清江	西澤
八幡町	松本操	千恵子	関
〃	八木高次	洋子	吉田
〃	稲葉穂積	姫好美	渡邊
清水町	小池涉	好江	小池

おしあわせに

区名	氏名	転出先
舟山町	花田和代	東京都
坂下	大久保貴美子	清水市
旭町	中村和美	富士市

かなしみ

区名	氏名	年齢
上町	久保田安次郎	八七
堺町	佐野亨	三九
〃	若月みよ	五六
四十九	清とら	七三
〃	佐野みや子	五二
〃	杉山かう	八五
宮町	小沢ちよ子	六二
本通一	長谷川つぎゑ	四九
本通四	谷莊四郎	八五
東町一	高橋よし	八二
かぎあな	望月久一	七四
富士見	望月保男	四五
〃	小林だい	七八
〃	久保田鐵次郎	七八
八幡町	井出裕子	〇
〃	望月五市	八二

総合相談

心配ごとは一人で悩まず
お気軽にご相談下さい。

とき 4月20日(金)
9時30分より

ところ 老人福祉センター

富士川短歌会

2月詠草 (天野寛選)

本町 篠根 チョ
庭の梅今を盛りと咲きそろひ出入
の人の足をとどむる

小池 中川しな子
並びいる三つの墓に香たむけかた
えの畑に一日草引く

四十九 辻 すみじ
ふと見ればノートに記す夫の短歌
共に生くるを幸として

本通り 望月 緑
彫刻の戦士に朝の日注ぐとき忘れ
いしものよみがえりくる

四十九 入月 弘子
暖かき冬日つづけば日溜りのポタ
ンの花ははや咲き初めぬ

本通り 桐谷 静子
寺山の端にかかれる細き月みずか
ねいろにさむざむと光る

宮町 山田たか子
暖冬に戸惑いつつも今日二月じゃ
がいも植う汗垂りながら

宮町 若月 幸江
雨あがり茂る万年青の実は光り葉
かげに見ゆる重なり生りて

木島 角替千鶴子
日だまりにひろげし切干し大根に
ひよつしばみしもちの実混る

相生町 長谷川ゆり子
病む母を一夜ぬくめし湯たんぼの
水をそそぎぬ桜草の鉢に

一里塚

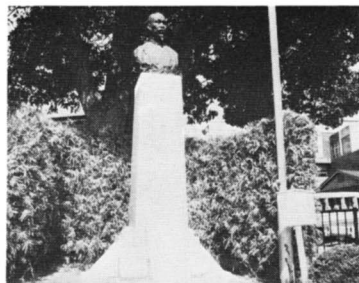


文豪森鷗外が小倉に左遷されるのは明治32年であるが、それ以前に勤めていた慶応義塾の講義の後任に大村西崖を薦めている。(大村西崖については富士川町史に詳しく掲載されている)

以下鷗外の紹介状は「拝呈、友人大村西崖氏一度御目にかかり度との事に付紹介申上候小生急に轉任忙中御いとま乞ひにも不參御ゆ

るし被下度願上候 勿々 六月十一日 森 松岡君」とあり、この反事を得て翌日西崖宛に「別紙只今參候に付さし上候久保田校長には特に小生より委頼いたし置申候は六月十二日 森 大村君」と送っている。この手紙は西崖に対する鷗外の信頼が、いかに厚いものであったかを示している。鷗外が小倉に発つのは6月16日のことである。この頃の二人の親密さは鷗外の日記にもあらわれている。明治31年の彼の日記の中には「大村來」という字句を随所に見ること

ができる。特にこの來という言葉の内には、待っていたものがやってくるという意味が読みとれるのである。洋画手引草、審美綱領等の共同作業が進められていた時期であつてみれば、この親密さは当然なのかもしれない。浅草に出て酒を飲んだという記事もみられ興味は尽きない。奇しくもこの拙文を書いている3月8日は大村西崖先生の命日であつた。間もなく新豊院の聖観音大画像も見られる。今まで実感として身近な存在とはいえなかつた人が、鷗外を通



役場庁舎前の大村西崖胸像

して私自身に不遜にも親しみやすく感じられたことは不思議である(「」内文は岩波版「鷗外全集」より) (S)